

1月17日(木) 18:30~

会場：静岡県評会議室



第137回定例研究会

だれでも参加できます

「退社」する韓国の若者たち —「セルフ・ナラティブ構築」の視点から—

報告：福島 みのり 氏（常葉大学 准教授）

これからの企画

- ◆【ワークショップ】
トラブルメーカーズ・
スクール（静岡県評主催）
日時…1月26日（土）
場所…静岡県評会議室
講師…名取学氏（全労連）
- ◆第138回定例研究会
日時…2月14日（木）
場所…静岡県評会議室
「韓国労働運動からの示唆
—自治体の労働政策」
報告：林克氏
- ◆春のセミナー
日時…3月21日（木）
場所…静岡県評会議室
自由研究テーマによる報告
（中山竜児氏、泰井良氏、
長尾徹氏）

若者のアイデンティティの危機

これまでのトランジション研究や若者政策においては、「職に就く」、さらに「正規職に就く」ことが最終目的として捉えられてきた。だが、雇用の流動化とともに終身雇用が崩壊しつつある今日、「正規職」についても「終身雇用」として働くことはますます不可能となっている。このような状況の中で、若者自らも「正規職」についても長年その職場で働くことを目標にしている訳でもない。昨今、日本も韓国も会社をやめる若者が次第に増え続けている。韓国では新入社員4分の1が1年以内に退社するという統計も見られる。若者のトランジションの様相はすでに「学校卒業→就職」ではなく、「学校卒業→就職→離職→休養→就職→離職」と複雑化しつつある。こうした現象は、もはやトランジションの長期化という視点のみでは捉えられない、人生履歴の多層化を物語っているといえる。本報告は、退社した韓国の若者へのインタビュー調査を通じて、後期近代を生きる若者のアイデンティティの危機の実態を読み解き、キャリア教育、キャリアサポートに集中している青年・若者政策研究への省察および再検討について議論していきたい。

※連絡先：〒422-8062 静岡市駿河区稲川 2-2-1 セキスイハイムビルディング 7F（静岡県評内）
静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>